令和８年４月１日
立川市立大山小学校
校長　根本　亜希子

令和８年度　立川市立大山小学校学校経営計画

１　学校経営の基本理念

大山小学校は、令和８年度に開校５５年を迎える。学区域には集合住宅があり、自治会の活動が活発で、学校教育に対する関心も高い。開校以来これまで地域の方々に支えられ、学校・地域・保護者が一体となって、児童の育成にあたってきた。

また、青少年赤十字活動に携わり、児童会活動にも位置付けられている。この歴史と伝統を踏まえ、日本国憲法及び国・都・市の教育目標や教育方針を基盤として、学校経営を行う。そして、児童が変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の「知」「徳」「体」のバランスのとれた「生きる力」を育成することを目指す。そのために、教職員一人一人が最大限に自己の能力を発揮し、意欲をもって組織的に業務を遂行する「チーム大山」として、教育活動を展開する学校運営を推進していく。

２　学校教育目標

○　健康で明るい子
◎　よく考え、進んで学習する子（本年度の重点目標）
○　心豊かに助け合う子

３　目指す学校像

コミュニティ・スクールとして、家庭・地域と協働して、健やかな児童を育成する学校
○児童が自他を尊重する豊かな心をもち、元気に挨拶をする学校
○教職員が意欲をもって職務にあたり、組織的に対応する学校
○保護者、地域から信頼され、安心して子供を通わせることのできる学校

４　目指す児童像

「知」「徳」「体」のバランスのとれた心身ともに健康な児童
○主体的に学習に取り組み、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けた児童
○人間尊重の精神をもち、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きる児童
○運動を通して体力の向上に努め、望ましい食習慣と生活習慣を身に付け、健康・安全で活力ある生活を営む児童

５　目指す教職員像

一人一人の児童を全教職員で担任し、児童を成長させる「チーム大山」

〇相互に学び、高め合う教師「わかる授業を目指す」

・考える・表現する・学び合う・振り返る　の４場面を創り出し、児童が学習の主役となる学習展開の授業を行う。

・各教員が教材研究の工夫と改善を重ね、相互授業参観や、ＯＪＴ研修等を通して、授業力を向上させる。

〇愛情をもって接する教師「人との関わりを大切にする」

・道徳を核とした温かい学級経営と思いやりを重視した指導を行い、児童が安心して生活できる環境をつくる。

・人と関わる多様な活動を充実させ、人と関わる楽しさ、多様な考えに触れる面白さ、人の役に立つことの素晴らしさを感じ、人への優しさと自分への強さをもった児童を育成する。

〇心身ともに健康な教師「児童を元気に育てる」

・体育の授業、体力向上旬間、集会活動、保健指導、家庭との連携を通して、児童の体力向上と健康の増進を図る。

・教職員が率先して挨拶を励行し、人権を尊重した言動を身に付け、いじめや問題行動の早期発見、早期解決に努める。

６　学校経営の基本方針

本年度の学校経営は、（１）「学習指導要領」「東京都教育ビジョン」「立川市学校教育の指針」の理念を基盤とした、学校教育目標の達成（２）特別支援教育の充実（３）コミュニティ・スクールの推進の３つの柱を基に、『一人一人の児童を全教職員で担任し、児童を成長させる学校「チーム大山」』のスローガンのもと、生きる力を身に付けた児童の育成を目指す。

今年度は特に、基礎学力の向上を重点目標に掲げる。

（１）学校教育目標の達成のために

①【健康で明るい子】健やかな体の育成

ア　「東京都統一体力テスト」「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の分析から児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、体育・健康等に関する指導の改善を行う。

イ　一校一取組運動である年間３回の体力向上の取組「長縄 days」「短縄月間」「持久走旬間」の充実を図り、児童の日常的な運動の習慣化や体力の向上を図る。

ウ　感染症の予防や、健康的な生活の習慣化を図るための指導を行い、日常的な健全な心身に対する児童の意識と感心を高める。

エ　食育の年間指導計画を基に、学校給食課と連携した食育の学習内容を充実させ、健康教育を推進する。

オ　アレルギー事故の未然防止のために、全教職員で情報を共有し、複数人でのチェックの徹底を図る。児童の安全と健康のために、危機意識と対応力を高める。

②【よく考え進んで学習する子】確かな学力の定着

ア　中・高学年における教科担任制、低学年における交換授業を推進・活性化し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す指導を展開する。

イ　全国学力・学習状況調査の結果や、東京ベーシックドリル診断テストの回答状況、日頃の教育活動における児童の学習における実態を踏まえ、授業改善推進プランの活用を図った授業実践を行う。

ウ　「考える」「表現する」「共有する」「振り返る」４場面の展開を軸にした指導方法の工夫・改善を通して、児童が主体的に学び、確かな学力を身に付ける授業を実践する。

エ　Chromebook、電子黒板を活用して、学習の流れの可視化や構造化を図ることで、ユニバーサルデザイン児童が安心して分かりやすく学べる環境を構築し、児童が主体的に授業に取り組む態度を養う。

オ　デジタル教科書や AI ドリルの活用等、Chromebook を日常的に使用する学習ツールとして効果的に活用することを通して、児童の主体的・対話的で深い学びの推進へと繋げる。

カ　朝学習、算数科の習熟度別指導、サマーup（補習教室）の活用を図り、児童の個別最適な学びを充実させる。

キ　研究部を中心に、授業力 up&授業デザイン向上チーム、授業 UD・UDL 探究チーム、体力向上・健康増進チーム、キャリア教育推進チームに分かれ、学びのテラスを通して、大山小学校の児童の実態を踏まえた指導方法の探究と授業実践の改善に取り組む。教員が自らの指導力を磨く機会をもち、児童の学力向上に向けた学校組織のさらなる活性化と進化を図る。

ク　立川市民科の学習を中心に、各分野の第一線で活躍する外部人材や、地域コミュニティとの連携を一層進め、多様な人材を活用した教育活動を推進する。

③　【心豊かに助け合う子】豊かな心の醸成

ア　道徳教育推進教師を中心に、道徳の授業を要とした学校全体での道徳教育を実践する。児童が命の尊さを知り、自己肯定感を高め、他者への理解や思いやり、規範意識、自主性や責任感などの人間性・社会性を育む心の教育を推進する。

イ　「東京都人権教育プログラム」を活用して、教職員一人一人が正しい人権感覚と人権意識を身に付け、全学年で人権教育年間指導計画に沿った人権教育を推進する。

ウ　「立川市子どものいじめ防止条例」及び「大山小いじめ防止対策基本方針」に則り、『いじめを生まない学校』を目指す。ふれあい月間、いじめ解消・暴力根絶旬間における学期に一回のアンケートを活用して、いじめの未然防止・早期発見に取り組む。

エ　朝読書や、年２回の読書旬間、電子図書館サービスを活用して、司書教諭や学校図書館支援員と連携して充実した読書活動を実践する。

オ　赤十字委員会担当を中心に、青少年赤十字活動を推進し、共生社会の実現や地域社会の発展に貢献し、平和を守る意識を抱く児童を育成する。

カ　たてわり班活動やクラブ活動等における異学年交流、地域・外部機関の人材等、多様な他者と協働する活動を通して、児童が他者を尊重し、良好な人間関係を構築しようとする社会性を育成する。

（2）特別支援教育の充実のために

ア　特別支援教室拠点校及び自閉症・情緒障害特別支援学級設置校としての強みを生かした指導をさらに推進し、インクルーシブな学びの実現のために、特別支援教室担任、情緒障害特別支援学級担任との連携強化を図る。

イ　自立活動の課題を基盤として、学習場面と結びつけながら、コミュニケーション・情緒の安定・学習への主体的参加を促す指導を系統的に行う。

ウ　感覚特性や認知特性に応じた個別最適な手立てを講じつつ、教科横断的な体験的活動（言語活動・数量操作・社会性学習等）を組み合わせ、自己理解と社会的自立を見据えた学習・生活スキルの確実な定着を図る。

エ　特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育校内委員会の定期的な開催や、ケース会議を行い、機能的な教育相談体制と児童支援体制を構築する。

オ　不登校傾向のある児童に対する校内相談体制の充実を図り、外部機関と連携して、児童が学校に安心感をもって登校できるよう学校体制を整える。

カ　スクールカウンセラー、巡回心理士、子ども家庭センター、児童相談所、青少年委員、民生委員、保育園、幼稚園、警察、医療機関等、関係諸機関との連携を密にし、児童の健全育成を推進する。

（3）コミュニティ・スクールの推進のために

ア　社会で活躍する外部講師招聘によるキャリア教育等を通じて、児童が主体的に進路を選択する能力を養う。

イ　小中連携教育を推し進めるため、立川第五中学校、第九小学校、上砂川小学校と連携し、児童生徒間交流・学校相互訪問を進め、地域の未来を切り拓く児童の育成を図る。

ウ　幼保小連携においては、全体計画に基づき、スタートカリキュラムの充実を図るとともに、近隣の幼稚園・保育園との互恵性のある幼保小連携を推進する。

エ　自治連砂川支部、大山自治会を中心とした地域住民や、保護者ボランティア等との連携を密にし、地域に開かれた学校を目指して、多くの目で児童を育てる環境を構築する。

オ　学校公開や保護者会、学校ホームページ等を通して、保護者や地域に対して本校の教育活動への理解を啓発する。

7　終わりに

学校は児童が望ましい集団生活の中で心身を豊かに育み、生涯学習の基礎づくりを通した望ましい人格形成の場である。教職員にとっても学びの場であり、保護者や地域住民にとっても、安全で楽しい場でなければならない。学校の課題を自分事として考え、組織的に課題解決を図る教職員を育てることが、学校の教育力の向上に繋がると考える。そのために、働き方改革とともに、教職員が自分の良さや自己有用感を実感できる校内の体制づくりを行う。

児童、教職員にとって居心地がよい、地域からさらに愛される大山小学校の発展のため、「チーム大山」の一人一人が最大限に自己の能力を発揮し、意欲をもって組織的に業務を遂行する学校経営を行っていく。